

米軍基地がなくなり、変わる沖縄!

平和で豊かな生活をめざす、基地撤去のたたかいを支援しよう!



普天間基地の 無条件撤去を勝ち取る!



現在の普天間基地(宜野湾市)
後方の建物が2004年ヘリが墜落した沖縄国際大学

北谷町の場合

(北谷町資料より作成)

米軍基地がリゾート・商業都市に一変

■町民税・固定資産税

北前地区	3億1,579万円に	税収効果 88.5倍に
桑江地区	1億895万円に	

(標準前比) ※2003年

■商業販売額

北前地区	1,154億8,700万円に	経済効果 77.5倍に
桑江地区	287億8,200万円に	

(標準前比) ※1991年～2002年(標準完了後から12年間) ※1995年～2002年(標準完了後から7年間)

■雇用(従業員数)

北前地区	2,112人に	桑江地区	1,278人に
------	---------	------	---------

(標準前比) ※2001年



一変した北谷町

那覇市新都心地区の場合

(那覇市資料より作成)

米軍基地が住宅、産業振興都市に変身

■町民税・固定資産税

2,500万円が	▶	34億円に	▶	136倍に
----------	---	-------	---	-------

(標準前比) ※2000年 ※2007年

■人口

約1,000人が	▶	18,977人に
----------	---	----------

(標準前比) ※1992年 ※2010年

■雇用

196人が	▶	7,168人に	▶	約36倍に
-------	---	---------	---	-------

(標準前比) ※前掲ブックレット「もつと知りたひ! 本島の沖縄」より作成

■生産誘発額

55億円が	▶	874億円に	▶	約16倍に
-------	---	--------	---	-------

(標準前比)

これまでの米軍基地返還はごく一部です。

◎ご意見・ご感想をお寄せください。

〒310-0912 水戸市見川5-127-281 TEL・FAX 029-251-2806 (E-mail) ibahei@amber.plala.or.jp

茨城県平和委員会

ご賛同ありがとうございました。朝日新聞12月8日の県内版に掲載された平和意見広告です。

○上の意見広告は多くの団体・個人の方々のご賛同で掲載されました。厚くお礼申し上げます。

春の憲法フェスティバル・NPT再検討会議にむけての署名行動、夏の平和のための戦争展・沖縄基地ツアー、秋には沖縄基地問題のチラシ・7万枚配布、そして平和意見広告と続きました。憲法・核兵器廃絶・沖縄基地とみんなで取り組んできました。秋にチラシについては一人でも多くの方に沖縄の基地の実態について知ってもらうことに視点を合わせました。平和意見広告では「基地がなくなれば、こう変わる」という現在・これからの沖縄問題について重点をおきました。理由は本土・茨城でも憲法や核兵器の運動では県民の理解や運動が進んでいますが、こと沖縄問題となると非常に遅れたいるのが実情です。いわば沖縄県民と一体となった沖縄平和運動が育っていません。米軍基地の

跡地利用についてはほとんど知られていないので、そんな意味合いをこめてみんなで話し合いつくりました。写真や数字は沖縄の那覇市・北谷町・琉球新報社・観光協会のみなさんにご協力してもらいました。

○また、ワイン販売も昨年を上回る700本以上ご協力いただき財政の一助として大きく貢献させていただき感謝する次第です。

○師走もあと半月を残すまでになりました。今年のかわら版も最後の号となりました。月3回、20年間続けられてきたことは、みなさんのご協力があればこそ深く感謝申し上げます。来年もいっそうのご支援よろしくお祈りします。では、よいお年をお迎えください。(事務局)

次号(N0.583)は、12/25号と1/5号の合併号となる為、新年の発行となります。来年も宜しくお願い致します。

平和新聞

2010年12月15日(水曜日)
1944号 (毎月5,15,25日発行)

1950年12月16日第三種郵便物許可 発行 **日本平和委員会**
1部140円 月額400円 〒105-0014 東京都港区芝1-4-9 平和会館
(郵送料月額120円) 電話03(3451)6377 FAX03(3451)6277

平和かわら版 平和新聞茨城版 No. 582
2010.12/15

発行：茨城県平和委員会 〒310-0912 水戸市見川5-127-281
Tel/Fax 029-251-2806 E-mail ibahei@amber.plala.or.jp

鹿行平和委員会 会長 内田 泰山さんを偲んで

以前から体調を崩しておられることは伺っておりましたが、内田泰山さんの突然の訃報に驚きました。いかにも内田さんらしいと申し上げると叱られますが、「実は医者言うことを聞かないんだよ。内田さんは自分で治すと言って、薬を飲むことも拒否して居るんだよ。」2ヶ月ほど前に小久保さんから聞かされました。小久保さんは、困った奥様に頼まれ、説得に行ったものの苦勞したそうです。それで私は、「ウコンは万病に効くんだよ風間さん。」と、自慢そうに言う内田さんの畑を見せていただいた時のことを思い出し、そのうちお伺いしようと思っていた矢先の事でした。

内田さんと私が関わりを持つようになったのは、鹿行平和委員会の集金を担当するようになってからのことです。それまでは、鹿行労連の会議で顔を合わせるくらいで、ゆっくり話をすることはありませんでした。初めて集金にお伺いしてビックリしました。話が長いのです。当時まだ40歳そこそこの私ですから、正直困りました。陸軍銚田飛行場の話、百里基地の話、内田さんの親戚の話、おさん狐の話、等々を嬉しそうに1時間半も話す内田さん。4ヶ月に一度お邪魔するのですが、物知りの内田さんの話は尽きませんでした。私の知っている海軍霞ヶ浦航空隊北浦分遣隊の話をしたときなどは大変でした。それを何時も奥様は、私にお茶を勧めながら笑ってみていました。内田さんの独壇場ですから・・・。

内田さんはいつもご夫婦で、戦いの先頭に立っていました。東海村の原研放射能漏れでも、百里の米軍機来るなでも、布川事件の裁判でも、北海道のサミットでも、成人式のチラシ配布は勿論です・・・。何時でも何か起きると、内田さんの顔があるのです。

それに人一倍健康には気を遣っておられました。自然食品が基本で、畑で作ったウコンの粉末を「万病の薬なんだよ。」と勧められました（まだ体調良好でした。すいません。）化粧水には、ユズの種の焼酎付けを教えられ、ユズをたくさん頂きました。奥様もそれ以外の化粧品は使っていないとのことでした。

最後まで平和の闘いの先頭に立っていた内田さん、いつも奥様と一緒に歩いていた内田さんを、鹿行で平和運動をしている仲間と知らないものはいません。あなたは、私たちの道しるべです。これからも、ずっと・・・。ご冥福をお祈りいたします。

鹿行平和委員会 風間 道夫

日本平和大会に参加して

事務局長・木村 泉

12月2日～5日に会愛された「2010年平和大会 in 佐世保」に、川又(那珂)さん・植田(弟・阿見)さん・木村(鹿行)が参加し、全国の仲間と連帯を強化してきました。

シンポジウムは「本当に米軍基地、日米安保条約は『抑止力』なのか?」「消費税、国民生活と日米安保の実態を考える」の二つ。分科会は「全国の平和を願う人たちと沖縄の米軍基地撤去運動の交流」を始め、「イラク・アフガン戦争と米軍」、「非核日本をめざす各地のたたかい」、「憲法9条を守り発展させるたたかい」など、九つの内容で、市内の各会場に分散し交流しました。

全体集会は最終日の佐世保公園の集会を含めると、3日連続で開催されました。沖縄の赤嶺政賢衆議院議員、鹿児島県徳之島の久保明伊仙町長からの「連帯の挨拶」では、現地の人たちのたたかいが、平和を願う多くの人たちを励ますことを実感しました。被爆地長崎からは、被爆11年目に被爆の実相を語り始めた渡辺千恵子さんの生涯を語る組曲が披露されました。壇上の車椅子には遺影が掲げられ、参加者の胸を打ちました。フィナーレの民主商工会会員による100人のダンスは、子どもたちも登場し、和やかな時間を作ってくれました。

最終日は「もう基地はいらんバイ」と佐世保公園で全体集会。1200人参加の市内ピースパレードは佐世保の人たちに基地撤去運動の前進を呼びかけました。

大会の参加者に若者が多く見られた事は本当に嬉しいことでした。茨城でも若い人たちへの柔軟なアプローチが求められます。

【川又さんの報告は、次号に掲載します。】

うれしい! 1年ぶりの入会者

総会と講演 11月20日(生)開催 ~守谷平和の会~

＝原子力を学ぶ＝ 加藤岑生さんの講演

総会の後、県平和委員会常任理事・県原水協会会長の加藤岑生さんの講演で、「原子力発電とは?原子力とは?」の題名で、学習を行いました。

加藤さんは、2010年原水爆世界大会と、ニューヨークで行われたNPT再検討会議に向けて日本から代表団が行って、活動した様子をDVDで報告してくれました。そして、原子力発電

『代表理事・常任理事はこんな人』

第10回目は、八郷平和の会・柳岡 修二さんです。



私は戦後三年目の1948年に、当時の東茨城郡渡里村にあった国立病院で生まれました。幼少期から二十歳まで旧水戸連帯四十二部隊の兵舎跡に住んでおりました。

今はその面影もありませんが、そのころは一帯に兵舎が十数棟あり、ほとんどの住民がおり、三、四棟は二階建てで、茨大の寮になっておりました。

子供時代は病弱で、冬になると必ず熱を出し、小4から小6の時にかけて三度の入院を余儀なくされ、小学校の卒業式はベッドの中でした。病院の外からは、自分と同年代の子どもたちの遊ぶ声がさかんに聞こえ、悔しい思いをしました。

健康は、30歳近くになってようやく得られたと思います。体調不良をなおそうとして、また友達の影響もあり、そのころから長距離走を始めたのでした。安全な食事と運動をすることによってすっかり健康になり、快適な日々を満喫しておりました。

友部に転居して2,3年後、それまで全くのノンポリだった私でしたが、民主運動に誘われ、自分に何ができるのかまったく自信のないままに、無謀にも飛び込んでいったのです。

私の「平和運動」に対する姿勢は、ひとつには努力しても報われないことに、一喜一憂しないこと。二つに、自分が差別される側の人間でありながら気づかない、もしくは気づいても諦めてしまうことを問題視すること。三つ目に、その原因と解決策を探求する。

自分自身の生きさえ未だに確固としたものをもてないのに、風呂敷を広げてはいけませんが、このことを自分の目標として、持ち続けて行きたいと思います。

とは・原子とは・核とは、についてパワーポイントによるスライドで、ていねいに説明され、会員や非会員の皆さんは、「誠実な話しぶりで難解な内容がより身近な問題として、大いに理解できた。」とか「大変勉強になった。」と好評でした。

総会の次の日に、非会員として参加された方から、平和の会に入会するとの返事を貰いました。1年ぶりの入会で、平和の会としてもさらに躍進できればと思っているところです。

(守谷平和の会・斎藤)